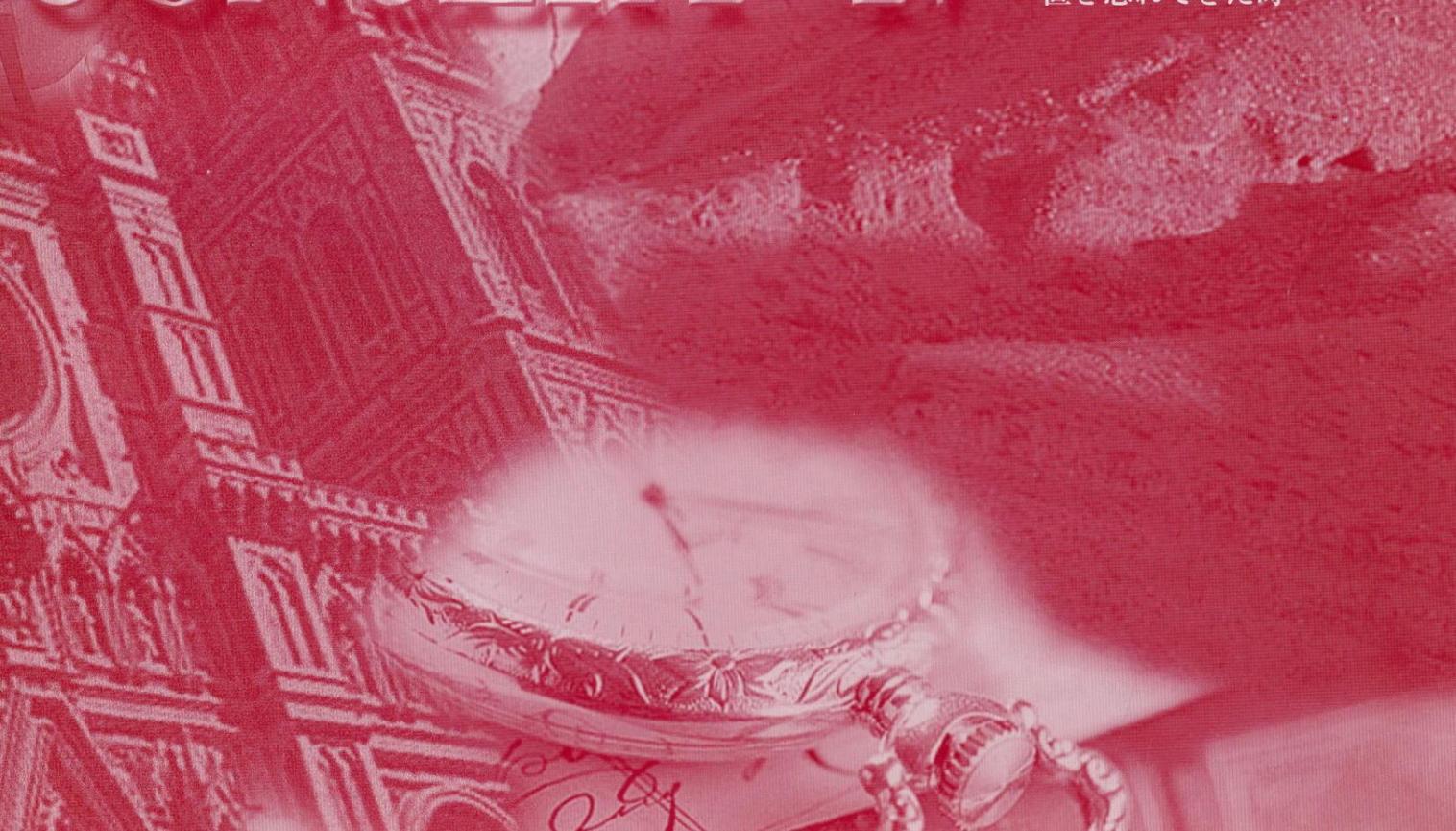


THE GRANPHONIC CONCERT IV

～置き忘れてきた時～



THE GRANPHONIC CONCERT IV

グラソニック 第4回定期演奏会

2002年3月24日（日）

PM3時開場／3時30分開演

名古屋市芸術創造センター

名古屋市芸術文化団体活動助成事業

I NTRODUCTION～ご挨拶に代えて～

置き忘れてきた時

皆様、本日はようこそお越しいただきました。さて、グランフォニック第4回定期演奏会のコンサートテーマは「置き忘れてきた時」です。皆さんはこのフレーズから何をイメージされるでしょうか。

取り上げる曲は、ロマン派から20世紀までの音楽が中心です。この二百年に及ぶ長い年月の人類の歩みを思う時、キーワードの一つとして「青春」という言葉が想起されます。科学技術の進歩、市民革命による民主主義の進展（一方では労働者革命による社会主義国家の成立）。人類は「薔薇色の未来」を信じて疑いませんでした。時代はまさに「青春期」にあったのです。その時代に生きた名もない人々にも、それぞれの青春（愛の歓びや悲しみ）があったことでしょう。「置き忘れた時」とは、その時代時代の青春を懸命に生きた人達（私達の祖父母や父母を含め）を追憶し、「合唱によるオマージュ＝賛辞・献辞」を捧げたいという私達の意思表明なのです。

パンドラの箱

薔薇色の未来を信じた人類は、残念ながら未だアルカディアに到達しません。ユートピアとは、名のとおり「何処にもない場所」なのでしょうか。皆さんの記憶に生々しいことでしょうが、21世紀最初の年2001年は、「憎悪と敵意そして暴力」が奔出する年となりました。しかし私達は悲観しません。今年2002年のパンドラの箱からは、きっと「友情」や「希望」が溢れ出てくることでしょう。今日、私達はそれを信じて唱います。

「ニュームーン（新月）」は、糸のように細い光に見えて、新たに生まれ来るものの生命と無限の可能性を予感させます。満天の星を仰げば、ベガとアルタイルの愛の二重唱が聞こえて来る筈です。

それでは、どうぞ最後までお楽しみください。

GRAND PHONIC CONCERT IN TOKYO

● プログラム

演出：池山 奈都子

STAFF

照明：曾我 裕幸（若尾綜合舞台）

衣装協力：坂 治栄

花鳥風月～独り：春の詩華集～

花：独之花 「野ばら」

作詞：Goethe 作曲：Welner & Schubert

日之花 「花」

作詞：武島 羽衣 作曲：滝 廉太郎

鳥：独之鳥 「小鳥たちは皆ここに」

ドイツ民謡

日之鳥 「かなりや」

作詞：西条 八十 作曲：成田 為三

風：独之風 「五月のそよ風」

作詞：Anton von Kleisheim

作曲：Joseph Kreipl

日之風 「緑のそよ風」

作詞：清水 かつら 作曲：草川 信

月：独之月 「砂のこびと（眠りの精）」

作詞：不詳 作曲：Johannes Brahms

日之月 「おぼろ月夜」

作詞：高野 辰之 作曲：岡野 貞一

花／風…編曲：なりた まさと

指揮：成田 正人

鳥／月…編曲・指揮：向川原 慎一

ピアノ：西野 亜理紗

口上：永井 一美

ドイツ語指導：Gundula Tumar

伊東 健光

合唱：グランフォニック

ある愛の航跡 ～ミュージカル「ニュームーン」セレクション～

1. Softly As In The Morning Sunrise
 <プロローグー恋する者達の運命>
2. Wanting You
 <恋に落ちる二人、そして別離>
3. Funny Little Sailor Men
 <船乗り気質>
4. Lover Come Back To Me
 <再会、そして愛の確信>
5. Stout-hearted Men
 <フィナーレー愛の勝利と友情賛歌>

作詞：Oscar Hammerstein II

作曲：Sigmund Romberg

訳詞：グランフォニック

編曲：福永陽一郎 (伴奏編曲：稻熊 裕之)

指揮：向川原慎一

ピアノ：早瀬 洋子

合唱：グランフォニック

男声合唱・女声合唱とピアノ・フルートによる
河畔の約束～もうひとつの七夕伝説縁起～

序 詠	ひさかたの
其ノ壱	ひとつせに
間 詠	あまのがわ
其ノ弐	いたづらに
其ノ参	ほしたちよ
間 詠	おおぞらゆ
其ノ肆	いまはただ
其ノ五	ちはやぶる
結 詠	わすれまじ

作：なりた まさと

指揮：成田 正人

ピアノ：早瀬 洋子

フルート：近藤 祐加 日置 智美

キャスト：

織姫 (しょっき) 琴 (こと)

「織 (しょく)」の村長 (むらおさ) の娘…Sop.橋爪圭子

織姫の母 (村長の妻) …Mez.夏目久子

織姫の父 (「織」の村長) …Bar.黒田泰男

語り部 …Ten.池田研一

家人 (いえびと) 1 ~ 4 …Quartet

伊東健光・弘瀬嘉夫・浅井良之・富田敏夫

村人 (むらびと) 1 ~ 4 …Quartet

田中良夫・向川原慎一・永井一美・篠松次郎

織姫の心 … ニューセンチュリーコーラス Nagakute

星人 (ほしひと) アルタ… グランフォニック

花鳥風月 独日：春の詞華集

ドイツとほん

あんそろじい

Kenko

明治の初め、外国から色々な文物が我が国へもたらされました。それらは130余年の時を経て、あたかも我が国固有のものであるかのように人々に受け入れられ、定着しました。音楽もその一つです。

このころ、或るものはアメリカから渡った音楽教材の一部として、また或るものは本国から直接、ドイツの歌が沢山もたらされました。民謡あり、芸術歌曲ありと様々でしたが、これらの歌は主に学校教育を通して我が国にしっかりと根を下ろし、長い年月の間元々はドイツの歌だったことが忘れられ、まるで日本の歌であるかのように親しまれ歌い継がれてきました。

一方、日本人の中でもヨーロッパの音楽を学び、これまでの伝統音楽とは違った音楽を創り、ヨーロッパの文芸に倣った詩歌を創るようになりました。こうして、今日に至るまで学校唱歌、童謡、芸術的な歌曲と沢山の歌が創られ、時の審判を経て今に歌われるようになったのです。

こんな由来をもつ歌の中から、今宵は、花、鳥、風、月にちなんだものを歌います。曲によっては必ずしもそのものズバリでないものもありますが、そこは当たらずといえどもということで、唱歌、民謡、芸術歌曲、学生歌と様々な素材から成る独日春の詞華集を編んでみました。

独の花：文豪ゲーテの詩によるヴェルナーとシューベルトの歌曲。童は見たり、野なかの薔薇の詞で親しまれている。学者の調べではこの詩に付けられた曲は何と121曲もある由。

日の花：満開の桜、春爛漫の隅田川を歌った我が国歌曲の傑作。もう100年以上も昔に創られたものです。

独の鳥：春になってどこからやって来たのでしょうか、森の木々に鳥たちが集い歌うドイツの民謡。我が国では明治以来霞か雲かの詞で親しまれ歌われています。

日の鳥：大正中期に《赤い鳥》に載った、ちょっとも悲しく幻想的な雰囲気の童謡。

独の風：春の新ビールの蔵開きを待ちわびる南ドイツの学生歌。ゆったり3拍子で暖かい春の風と共にほろ酔い、酩酊。

日の風：第二次大戦後の童謡。緑のそよ風、ブランコ、巣箱の鳥、子供の明るい希望と未来を願って。

独の月：月明かりの中で小さな花と共に夢見る愛しい子。プラームスの作品だが、もとはドイツ民謡。

日の月：大正初期の文部省歌。今では失われゆく春の風物詩、日本の原風景のような臘月夜。

*

それぞれの歌の中には、ピアノパート、間奏、挿入曲としてこれまた花鳥風月にちなんだ曲が挟み込んであります。あれ、あんな曲が…、こんな歌が…、そうです、小鳥の歌声、風の音のように耳を傾けてみませんか。

21世紀の『ニュームーン』

森重 雅夫

1. あらすじと5つの曲

時は1729年。舞台はミシシッピ河口の港町ニューオルリーンズ。フランスの革命派貴族ロベール・ミシオンは国王派に追われ、この地の富豪ボーノワール家の召使いに身をやつし、再起の時を窺っています。

(1)プロローグー恋する者達の運命

(Softly as in the morning sunrise)

やがて、彼はこの家の令嬢マリアンヌに恋心を抱くが、友人にして革命の同志フリップは彼を諭して歌います。「朝日とともに始まった恋も、激しく燃え上がる胸の想いも、やがては冷めて、夕陽が沈むように波間に溶け去ってしまう」と。

(2)恋に落ちる二人、そして別離 (Wanting you)

そんな友人の諫めも、ロベールの耳には入りません。マリアンヌと彼は、大邸宅の庭で歌います。「僕はいつか、ただ一人の人（女性）と出逢うことを信じていた」「私も、運命の赤い糸で結ばれた人（男性）がきっと現れると思ってたのよ」そして、二人の愛のデュエットは延々と続きます。しかしそれも長続きしません。国王の命を受けた追っ手によって、ロベールは逮捕されてしまうのです。

(3)船乗り気質 (Funny little sailor men)

ここで舞台は一転して、仏米間の定期船『ニュームーン号』の船上。ロベールは本国送還のため、船内の牢に閉じ込められています。彼は船長から、逮捕はマリアンヌの裏切りのせいだと吹き込まれています。一方マリアンヌは彼が忘れられず、一団の女性を引き連

れて同じ船に乗り込んでいます。曲は荒くれ者の船員達が、初(うぶ)な若い水夫をからかう様子をコミカルに描き出します。

(4)再会、そして愛の確信 (Lover come back to me)

船は帆に風をはらみ、一路フランスへと向かいます。しかしロベールが同志と密かに画策した反乱が成功し、彼は、理想の共和国を作るため、船首をフロリダ沖の小島へと廻らせます。思いもかけず再会したロベールとマリアンヌは、新月の夜穏やかな波の上を滑るように走る船上で、幸せだった日々を語り合います。そして引き裂かれた恋を。そして、今でも互いに求め合う心は変わっていないことに気付きます。誤解も溶けた二人は、今度こそと新月に愛を誓い、声を合わせて「I will come back to you！」と歌います。

(5)フィナーレー愛の勝利と友情賛歌

(Stout-hearted men)

二人の周りを、何時の間にか船乗りや同志達が囲みます。彼らは二人の愛の勝利を祝福し、過去の苦労やそれを乗り越えた友情を声高らかに歌い上げます。「仲間よ！望み抱いて何時か夢をかなえよう」「世界はやがて開けていく！」そしてふたたび『Wanting you』の一節が流れ、全員で愛の尊さを讃えて大団円を迎えるのです。

2. おことわり

私達は今回の演奏にあたり、男声合唱団『グランファンニック』ならではの『ニュームーン』にしたいと思いました。また、外ならぬ「今、この時」に相応しい曲にしたいとも。そのため、一部原曲とは異なった内容の歌詞としました。ご理解ください。

グランフォニック版 「ニュームーン」

訳詞：グランフォニック

1. Softly As In The Morning Sunrise <プロローグー恋する者達の運命>

恋したあの日々 やさしさ満ちてた
明るく輝きながら
時には気まぐれ 時には裏切り
それは永久の運命（さだめ）

そっと 昇る朝日が
恋の芽生えを 運んでくる
胸焦がす炎よ 熱き思いも
夢きもの

愛の証（しるし）は 燃えるくちづけ
今は虚しく 裏切られる 恋の果て

そっと沈む夕陽は
恋の名残を 間に溶かす

2. Wanting You <恋に落ちる二人、そして別離>

僕は信じてた
いつかきっと
君に出逢うこと 愛しあうこと

赤い糸の先 手繰りよせて
君も待ってた 出逢う日を

Wanting you
捜しつづけてた 昼も夜もなく
君を抱く夢

Wanting you
時にはその夢 叶いそうにななく
打ちひしがれたり

夢は 夢でしかないと知っていても
僕は ひたすら夢を追いつづけた

Wanting you
君こそは僕の ただひとつの命さ
すべてさ

Wanting you
捜しつづけてた 昼も夜もなく
君を抱く夢

Wanting you
時にはその夢 叶いそうにななく
打ちひしがれたり

夢は夢でしかないと知っていても
きっと叶うよ その時まで二人

Wanting you
君こそは僕の ただひとつの命さ
すべてさ

3. Funny Little Sailor Men <船乗り気質>

ヨー！ ヘイホー！ 帆を揚げろ
野郎ども もたつくな！
錨を上げ 潜ぎだすのだ
ヨホー！ ヘイホー！
さあ歌えよ ヨーホー！

俺はまだ女を見たことがない
船の上じや 文句言ったってしょうがない

どうせ俺たちは荒くれ者さ
船の暮らしも捨てたもんじゃない

女といえば人魚のことかしら？
一度会ったら
すぐに逃げ出すかもね？

どうせ俺たちは荒くれ者さ
船の上でも 住めば都

ところが、ほら
この船にも女のすがたが！
さあ、どうする？

甘いかほり漂わせて
俺達を虜にする
怖いぞ！

逃げる場所 どこにもないぞ！
サメの餌食のほうがました！

あの瞳 見つめられ

甘い声 気もそぞろ
後は地獄が待っている！

オー情けないぞ そんな顔で
Funny Little Sailor Boy !
オー 本気にして怖がってる
Funny Little Sailor Boy !

男は誰も 女が好き
だが、いつも泣きを見る
それは男さ

そう、甘い声で「あなたが好き」
これがたまらぬ
そう、伏目がちに見つめられる
これにも弱い

荒くれ者も歯が立たない
女にはくれぐれも気をつけろ！

オー 甘い言葉 訳あり顔
騙されるなよ！
オー 甘いかほり 色目使い
騙されるなよ！

だけど男は 懲りもせずに
騙されて傷ついて ヤケ酒喰らう
オー 甘い言葉 訳あり顔
騙されるなよ！
オー 甘いかほり 色目使い
騙されるなよ！

だけど俺たちや 懲りもせずに
ヤケ酒呑んではばかり 二日酔い！

4 . Lover Come Back To Me ＜再会、そして愛の確信＞

僕のまわりに 君はいない
君が去ってから 虚しい日々
夜の静寂の中に君の求め

星影やさしく 空には新月
巡り逢うその日を 夢に描いた
出逢って（すぐ） 愛した（でも）
別れは突然
傷ついた心は 今も癒えぬ

二人で歩いたあの小径 今でも
小首をかしげる君の癖 忘れはしない
今宵も新月 二人の心は
今も熱く求めあって
Lover Come Back To Me !

今でも 忘れられない
今宵も新月 見上げる二人の
絆固く 心に誓う
I Will Come Back To You !

5 . Stout-hearted Men ＜フィナーレ・愛の勝利と友情賛歌＞

二人の心は
固く結ばれ迷いも消えた
愛こそはこの世の 力の源

あなたがそばにいれば
明日への力が湧くよ

仲間よ 手と手を組み
ともに進み行こう
時には挫けそうな
そんなこともあるさ

肩組み顔を上げて 歩いて行こうよ
夜明けは近いぞ がんばろう！
世界はやがて 拡がりいく

仲間よ！望み抱いて
いつか夢をかなえよう

挫けることもある 涙する時も
けれども（俺たちや）
一人じゃない（ないんだ）
励ましあって 遙かな道をゆこう！

仲間よ 手と手を組み
ともに進み行こう
時には挫けそうな
そんなことがあるさ

肩組み 歌いながら歩く
それがいいさ
俺たちや 何も怖くない
世界は すべてうまくいくさ！

Wanting you
この世界に ただ一つだけの宝よ
君こそ！

大鳥と七夕伝説

おおとり

たなばた

なりた まさと

今から3千7百年ほど前、中国では夏王朝が倒れ、新しく商王朝が興りました。商では、鳥は神の使いだと崇められ、宮殿の門には鳥がとまり易いように横木をしつらえました。今の鳥居の原型だと言われています。商はとても信仰の厚い民俗だったようですが、新しいものも次々と産み出しました。馬に牽かせる戦車を出現させることで圧倒的な強さを見せました。この車輪と車軸を作る技術は、長い間他国では真似ができなかったそうです。文字を持ったのも商王朝から。牛を農作業に使い始めたのも商王朝からです。なぜ商人(しょうひと)はこんなに他から突出できたのでしょうか。ずっと不思議に思っていました。

ところが2年ほど前、この謎を解くヒントを与えてくれる書籍と出会ったのです。アラン・アルフォードの『神々の遺伝子』(講談社)に「ジョン・フラム神」の話が紹介されていました。1930年代、米国の兵士がニューギニアへ進軍したとき、外界から隔絶されていた原住民と遭遇しました。兵士たちは輸送機から供給物資が投下されると、彼らに現代社会を象徴するようなものを分け与えました。原住民は兵士たちが去った後、これからも「大きな鳥」が自分たちに恵みを運んで来てくれるのだと信じ、「ジョン・フラム」という神を作り上げたそうです。命名の由来は、ある兵士が自分を指差しながらこう言ったからです。恐らく「John from New York. (ニューヨークから来たジョンだ)」とでも。

ここからは想像の世界。もし、その昔宇宙船が商の

地を訪れたとしたら?そこで彼らに文明の利器や知識を与えたとしたら?見事に商の突出と鳥居の説明が付くのではないでしょうか。「神の使いの鳥」なので、母船からのシャトル機かも知れません。古代メソポタミアで何万枚も発見された6千年前の粘土板は、異星人の来訪を想起させるシュメール語の記述で満たされているそうです。

さて、七夕伝説の発祥はどうやら中国のようです。もともと私は小さい頃から七夕伝説には興味が深く、「なぜ1年に1回の逢瀬なのか」とか、「なぜ彦星は牛を牽いていたのか」とか、「なぜ織姫が居るのは琴座なのか」とか、「どうやって星になったのか」とか、寧ろあまり本筋とは関係のないところにこだわったものでした。ところが上の想像を広げて行くと、これらの疑問にも答えられることに気付きました。こうして生まれたのが、音楽物語15作目に当たる『河畔の約束』です。

きっと七夕伝説(神話?)にも何らかの基になる事実があったに違いない。それも、もっと身近で人間臭い事実が。それを探し出してみようというのがこの作品です。勿論その底に流れるのは、これまでと同様「生きるエネルギーをお届けしたい」という思いであることは申すまでもありません。

尚、場面を古代中国と設定しながらも、万葉集の中から「あまのがわ」を詠み込んだ歌三首を挿入してみました。物語の時間的経過や場面転換を象徴させたかったからですが、これは、小泉八雲ことラフカディオ=ハーンの遺稿集『天の川幻想』(集英社)が、万葉の世界を魅力的に紹介してくれたことに影響を受けています。

- ・ひさかたの あまのかわせに ふねうけて
こよいかきみが あがりきまさむ
(遙か遠くの天の川に舟を浮かべて、今夜こそあなたが通って来て下さるはずだわ)
　　＜万葉集 卷八1519 山上憶良＞
- ・あまのがわ 相向き立ちて 我（あ）が恋ひし
君来ますなり 紐解きまけな
(天の川を挟んで向かい合う、恋しいあなたがこちらへ来て下さるというので下帯を解いて待っています)
　　＜万葉集 卷八1518 山上憶良＞
- ・おおぞらゆ 通う我すら 汝（な）がゆえに
天の川道（かわじ）を なづみてぞ来し
(大空を通うことのできる私だとはいえ、相手があなただからこそ天の川を苦労して渡って来るのですよ)
　　＜万葉集 卷十2001 柿本人麿＞

万葉集には、この他にもたくさん七夕の言い伝えに掛けた歌が収められています。ただ、これまた不思議なことに、日本の古い詩歌には「星」を詠んだものがまったくと言って良いほど見られません。「月」については、あれほど多彩な表現を用いているのに。古来より星で事の吉凶を占った中国とはまったく対照的です。ひょっとしたら、日本には異星人が来訪しなかつたので、星に興味を示さなかったということなのでしょうか？

因みに、日本では「天の川」と書くのが一般的ですが、あの壮大な星々の帶を表わすには、私は中国式に「河」の字を当てたい（cf.小川／大河）と思います。それから、この作品の最大の特徴は、主人公アルタが最後まで顔を見せないことです。これはお客様が抱く

彦星のイメージを壊したくないという訳では決してなく、グランフォニアン一人ひとりを主人公たらしめための苦心の策であることを申し添えておきます。そのため、男声パート（アルタ）と女声パート（織姫の心）はそれぞれ独立した役割を担っており、所謂「混声合唱」になっている部分は数えるほどしかありません。

また、今回第1ステージと第3ステージの曲中に、これまでグランフォニックで演奏してきた私の“男声合唱による愛の三部作”『パパの子守歌』『絵描きと少年』『不破臼人の恋』から一部を取り出して、そっとモチーフ等に埋め込んであります。以前お聴きになられた方々は、それらをみつけることも楽しみの一つとして頂ければ幸いです。

【ストーリー】※演奏をお聴きになる前にお読み下さい
昔むかし「織（しょく）」という村を治めていた村長（むらおさ）夫婦に、お琴という娘があった。

お琴は、磁気嵐を避けて地球へ立ち寄った宇宙貨物船パイロットのアルタと出遭い、愛し合うようになっていた。しかし、アルタは地球と自分の暮らすアルタイル星系とを往復せねばならず、一年に一度、それも七日七晩しか逢瀬を楽しむことができなかった。普段はアルタが持ち込んだコスマールで交信するばかり。たまりかねたアルタは、お琴に「僕の星で一緒に暮らそう」と持ち掛けるが、いつの世も父親は…

池山 奈都子：演出

名古屋音楽大学声楽学科卒業。名古屋市文化振興事業団、名古屋オペラ協会、名古屋二期会などの諸団体のオペラ・ミュージカル公演において数多くの演出家の助手を務める。また、神戸・東京・鹿児島などでのオペラ公演やミュージカル公演の演出助手としても活躍。

1992年モンテヴェルディ作曲「オルフェオ」(大阪・静岡公演)で演出家デビュー。「女はすてき」「海の子守唄」「墮ちたる天女」「ピンピノーネ」「香妃」「Rigoletto」「マクバス」「ヘンゼルとグレーテル」「カルメン」「愛の妙薬」や創作ミュージカルの演出をはじめ、合唱団やオペラの名曲が気軽に楽しめるコンサートの演出も手掛けている。

夏目 久子（メゾソプラノ）

同志社女子大学音楽学科声楽専攻卒業。関西、名古屋二期会、大阪喜歌劇楽友協会、名古屋市文化振興事業団などのオペラ、オペレッタ、ミュージカルに多数出演。2002年2月、市事業団主催「天国と地獄」で“世論”役。

現在、名古屋二期会会員。2000年8月、3度目のドイツ演奏旅行中、南チューリンゲン日独協会名誉会員に任命される。

橋爪 圭子（ソプラノ）

愛知県立芸術大学音楽学部声楽科卒業。名古屋二期会のオペラやコンサートに数多く出演する他、創作オペラやオペレッタの初演にも参加。ドイツ歌曲、ロシア歌曲、イタリアオペラ、アメリカの歌など幅広いレパートリーに意欲的にとりくんでいる。

個人リサイタルを8回開催。

現在、同朋高校音楽科及び名古屋音楽学校講師。名古屋二期会会員。アメリカの歌研究会会員。

早瀬 洋子：ピアノ

愛知教育大学音楽科卒業、同大学院修了。在学中より伴奏者として活動を始め、以来、名古屋二期会を手始めに、名古屋オペラ協会、三重県オペラ協会、名古屋市文化振興事業団、愛知県文化振興事業団、岐阜県産業文化振興事業団、長久手オペラレクチャーコンサート、などの公演に多数携わる。

また、若手声楽家の会の音楽監督兼全曲伴奏者として4回のコンサートを開催。名フィルの依頼により指揮法指導のアシスタントも務めている。

現在、愛知教育大学非常勤講師。

西野 亜理紗：ピアノ

武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。故・田中典子、宇野恭子、市田儀一郎、萬歳典子、竹中勇記彦、各氏に師事。T V 愛知主催 “NewClassic Artist”、ピアノ・ソプラノデュオリサイタル、スタジオ・ルンデ主催<X>コンサート、ナディアパーク主催「X'masファンタジーショウ」等に出演。

現在、声楽・合唱・胡弓等、数々の伴奏を務める。

近藤祐加：フルート

名古屋芸術大学音楽学部器楽科フルート専攻卒業。同大学研究科終了。在学中、室内楽定期演奏会、卒業演奏会に出演。P.マイゼン、S.ミランのマスタークラスを受講。浜松国際管楽器アカデミーに参加。第9回日本フルートコンベンションコンクール・アンサンブル部門にて金賞を受賞。2001年8月神戸にて入賞者披露コンサートに出演。

大西圭子・大海隆宏・寺本義明の各氏に師事。

日置智美：フルート

名古屋芸術大学音楽学部器楽科フルート専攻卒業。同大学主催の定期演奏会、卒業演奏会に出演。モーツアルテウム音楽大学（オーストリア）マスタークラスにてM.M.コフラー氏のレッスン受講。ヤマハ主催管楽器新人演奏会、国際芸術連盟主催ジョイントリサイタル、名古屋笛の会主催フレッシュコンサートに出演。

現在、名古屋ウインドシンフォニー団員。

稻熊 裕之：編曲

同志社大学文学部卒業。グリークラブに所属し、故福永陽一郎氏の指導を受ける。氏の影響の下に、編曲を手がけるようになり、今日に至る。

第9回東西四大学OB合唱団演奏会の合同演奏で自身の編曲による「熱き心に」を指揮、その後各地の男声合唱団に広く歌われるようになった。昨年5月に韓国慶州市で行われた韓日親善演奏会では、ソウルオリエンピックのテーマ曲「Hand in Hand」を合同演奏曲として編曲・指揮した。

向川原慎一：編曲・指揮

名古屋市出身。1973年早稲田大学第一政治経済学部卒業。高校時代からの男声合唱を皮切りに大学のグリークラブではパートリーダーと学生指揮者を務め、その後も女声・混声・男声それぞれの分野で指揮や演奏に多くの経験を重ねながら、楽器メーカーの音楽教室関係の仕事を通じて和声法や音楽理論などを学び音楽への造詣を深める。

現在は会社経営の傍らグランフォニックをはじめとして女声コーラスやゴスペル講座の指導、および作編曲などの音楽活動を続けている。

小林研一郎氏に師事。

成田 正人（なりた まさと）：作曲・編曲・指揮

慶應義塾大学在学中より合唱指揮の傍ら作曲・編曲や詩作を手掛け、数年前から「生きるということ」をテーマにした“音楽物語”形式の作品をシリーズで発表し始める。代表作に『子犬のチロの物語』、愛の三部作『パパの子守歌』『絵描きと少年』『不破白人の恋』、とこなめ音楽祭委嘱作品『ブチ・ハラハの謎』、華音の会委嘱オペレッタ『歌うは愛する人のわざ』、盲導犬チャリティー委嘱オペレッタ『ハーネスで握手！』等。他に編曲もの多数。

指揮法を伊藤栄一氏に師事。「カンタービレひまわり」「ミューザヴォーチェ」指揮者。

ニューセンチュリーコーラスNAGAKUTE

私たちは、結成6年目のまだ若い合唱団です。「オペラを歌える合唱団」を作ろうと 長久手町を中心に結成されました。女声50名強。男声10名弱で、男声不足に悩んでいます。毎週1回の練習日には、長久手町・瀬戸市・日進市・尾張旭市・名古屋市・豊田市と、近隣の市町村から「長久手文化の家」に団員が集まっています。

指揮者の山田信芳先生の御指導の下、年1回の定期演奏会に向けて、短い時間ですが 集中して真剣に練習を重ねています。女性は出席率も高く、練習の成果が着々と積み重ねられています。また、他の合唱団にも所属している合唱好きなメンバーも少なくありません。男性は仕事の都合で なかなか練習に参加できないこともあります。それも悩みのひとつとなっています。

毎年1回の演奏会というのはまことに贅沢な話ですが、結構負担も大きく、直前には不十分な音取りで不安を抱えて練習に追われることもあります。曲目は、オペラを中心に、組曲や叙情曲、アカペラにも挑戦しています。演奏会では、毎回御好評をいただきてきましたがパートバランスの都合上、エキストラの協力を得ているのが実情であり、これを自前で演奏できるようになることが当面の目標です。

また、定期演奏会以外にも、長久手町の行事に参加したり、老人ホームへの慰問演奏などにも取り組んでいます。地域で生まれた合唱団ですので、地域に根ざした活動を大切にしていくためにも、ボランティア活動にもっと広がりを持たせたいと考えているところです。誰でも知っている親しまれた曲や、皆で歌える曲

を数多く持ち歌にしていくことも目標としています。

まだまだ多くの課題を抱えていますが、少しづつでも前進していきたいと希望しています。

多くの皆様の 御批判、御指導がいただけましたら幸いです。

S 秋谷 純子 井戸田浩子 川瀬 綾子
國松富美子 五味 典子 霜村万里子
竜木紀倫香 日比野麻衣子 伏見ひろみ
穂山 和子(M) 鈴木 直美(M)

S 芥川 紀子 岩橋 正子 内田 優子
中野 園代 林 つや子 森田 繁子
森田美智子
西脇 和子(Y) 小沢弥生(Y)
近藤 扶美(Y)

A 小川未佐子 河野 俊子 川本 清美
佐藤 和子 杉戸 素子 瀬川 典子
田中 啓子 坪井よし子 長谷川孝子
森谷 雅子

A 嵐 玲子 戸田 洋子 富田 宏子
野沢 好子 浜田 典子 林 信子
古田實智子

註：Y=ゆりの会

M=アンサンブル・円

グランフォニック

1994年5月、東海地区在住の東西4大学（早稲田、慶應、同志社、関西学院）のグリークラブOBを中心となって「東西4大学OB合唱団東海」を結成。1996年10月に三重県津市にて始めての演奏会を開催。その後、1998年1月に第1回定期演奏会、1999年4月に第2回定期演奏会を開催し、2000年10月には名称を「グランフォニック」と改称し第3回定期演奏会を開催。

現在『コンサートは、男声合唱のより高度な水準を目指しながら、団員の自己満足ではなく、来場していただいた皆さんから聴きに来て良かったと言っていただけるよう努力する』、『団の特色として、「ドイツもの」（原語）をキチンと歌える合唱団を目指す』、『男声合唱のレパートリーを創作や編曲を含めて開拓していく』という団の基本コンセプトのもとで活動を続けております。

団員は大半が仕事を持った社会人ですから、いつも練習に出席できるわけではありません。そこで、その遅れを取り戻す手助けとして開発されたのが、「IT」を本業としている団員が立ち上げたホームページです。そのホームページには、演奏する曲の「音取り用音源」なるものも貼り付けられており、団員はそれをダウンロードして、ある者は通勤電車の中で、又ある者は車の中で、そして中には野菜畑でと様々な場所で音取りに励んでおります。グランフォニックは、歌い方から飲み会の連絡まですべてEメールでおこなうという「E合唱団」の一面も持ち合わせているのです。（ホームページはまだ建設途中ですがよろしかったら

のぞいてみてください。）

アドレスは「<http://www.granphonic.com>」です。

さて、昨年は、5月に団結成以来始めての海外（韓国）演奏旅行を挙行、秋には名古屋二期会のオペラ「フィガロの結婚」に合唱メンバーとして参加、さらには「豊田スタジアム」のオープニングコンサートでは、あの「ホセ・カラーラス」のバックコーラスをつとめるなど活動の場もどんどんひろがってきております。これからも「どんどん伸びるグランフォニック」を多くの方々に楽しんで頂けるような活動を行っていきたいと考えております。

T 佐々木正義 三ツ松 平 池田 研一
伊藤 高潤 神谷 立正 田中 良夫
鹿住 誠 向川原慎一 片田 保彦

T 吉居 清 柴田 道昭 飯田 公男
森重 雅夫 三ツ口勝久 魚谷 庄司
佐藤 正 石井 清 伊東 健光
間瀬 譲 新谷 岳史

B 藤山 祐司 浅野憲一郎 小林 武久
西村 一男 黒田 泰男 成田 正人
永井 一美 弘瀬 嘉夫 長谷川利孝
石飛 均

B 宮崎 嘉夫 伊藤 三作 外村 俊夫
井ノ口貴敏 富田 敏夫 古田 和則
浅井 良之 稲熊 裕之 篠 松次郎
山田 純

THE GRANPHONIC CONCERT IV

「グランフォニック」スタッフ

団長 三ツ松 平
幹事長 稲熊 裕之
副幹事長 石井 清
庶務 黒田 泰男
会計 鹿住 誠
法務 井ノ口貴敏

音楽スタッフ

指揮者 向川原慎一
成田 正人
パートリーダー

T1 田中 良夫
T2 伊東 健光
B1 弘瀬 嘉夫
B2 浅井 良之
演出担当 森重 雅夫

合唱団へのご連絡は
(幹事長) 稲熊 裕之

〒457-0051

名古屋市南区笠寺町西之門10
tel:052-822-7865

THE GRANFONIC
<http://www.granphonic.com>

THE GRANPHONIC CONCERT IV

名古屋市芸術文化団体活動助成事業

～置き忘れてきた時～

グラントニック 第4回定期演奏会

2002年3月24日(日)

PM3時開場／3時30分開演

名古屋市芸術創造センター

(地下鉄新栄町下車・北へ徒歩5分)

全席自由：2000円

お問い合わせ

稲熊 TEL: 052 (822) 7865

FAX: 052 (822) 7863

Stage1 「花鳥風月」

～独白：春の詞華集（あんそろじい）～

編曲：向川原慎一

なりた まさと

Stage2 「ある愛の航跡」

～ミュージカル「ニュームーン」セレクション～

作詞：Oscar Hammerstein II

作曲：Sigmund Romberg

訳詞：グラントニック

編曲：福永陽一郎（伴奏編曲：稲熊 裕之）

Stage3 男声合唱・女声合唱とピアノ・フルートによる

「河畔の約束」

～もうひとつの七夕伝説縁起～

作：なりた まさと

指揮：向川原 慎一

成田 正人

演出：池山 奈都子

ソプラノ：橋爪 圭子

メゾソプラノ：夏目 久子

ピアノ：西野 亜理紗

早瀬 洋子

フルート：近藤 裕加

日置 智美

女声合唱：ニューセンチュリーコーラス Nagakute (Stage 3)

男声合唱：グラントニック